

HONDA

学校法人 ホンダ学園

ホンダ テクニカル カレッジ 関西

Honda Technical College Kansai

— 優れた技術は優れた技術者から生まれる —



学園都市を謳う大阪狭山市には、近畿大学医学部、帝塚山学院大学狭山キャンパス、そして今回AGUAが特集いたします自動車大学のホンダテクニカルカレッジ関西があります。

ホンダテクニカルカレッジは本田技研工業株式会社の創業者、本田宗一郎が創設、1976年に埼玉県ふじみ野市に関東校を、1981年に大阪府大阪狭山市に関西校を設立開校いたしました。この学校は自動車整備士を育成し世に送り出すことを目的とする学校です。関西校は大阪狭山市くみの木2丁目、国道310号線沿

いに立地しています。南側に樫本病院があります。取材日午前8時、校門の前に立っていますと、学生らしき若き男の一群が道路を横切って近づいてきました。道路を挟んで校門の斜め向いに学生寮が見えます。校門前で校長先生に大きな声で「おはようございます」と挨拶をして校内に入っていきます。ざあーと一陣の風が吹き抜けた感じです。その間にも徒歩で、またバイク等で続々登校してきます。女子学生の姿もありました。そうこうするうちに校庭に白い実習着に着替えた学生達が集まってきました。

（8時15分、朝礼）

学生全員校庭に整列し、担当教官の指示のもと朝の挨拶を全員で相互に交わします。晴れた空に声は響き渡り、真っ白な作業服の背の赤いHONDAの文字が目に見えます。育成方針「マナーとマインドを磨く」はこの朝礼に始まります。朝礼が終わるとそれぞれの学科・学年に分かれて授業に入ります。

これから当校の校長である五月女浩先生と教務部長をされている寺尾典篤先生のお二人にご案内頂き、学内を紹介して参ります。

〈学科概要〉履修できる学科

目指す国家資格 ● 二級自動車整備士 ● 一級小型自動車整備士

- ① **自動車整備科** — 2年制(男女定員260名)
◎ 本物を見る、触れることで自動車を体で実感させ、自動車の基礎を理解させる。
- ◎ 基本知識の習得後4輪2輪のメカ、電気系統のシステム、工具検査機器を学び、進路コースを習得。
- ◎ 卒業時に与えられる称号【専門士】
- ② **一級自動車整備研究科** — 4年制(男女定員60名)
◎ 自動車業界の未来を担う高い知識と技術力に加え、時代に敏感であり、自ら考え行動する「考動力ある」人材を育成する。
- ◎ 卒業時に与えられる称号【高度専門士】
- ③ **自動車研究開発科** — 3年制(男女定員40名)
◎ レーシングカーづくりを通して自動車研究開発を3年で学ぶクリエイティブ指向の専門課程。
- ◎ 卒業時に与えられる称号【専門士】
- ④ **自動車整備留学生科** — 3年制(男女定員40名)【新設】

※ 各科において与えられる称号は、いずれも文部科学大臣告示。





この3学科各学年の学生達が1号館から4号館まである4棟の学舎の中で本物のクルマと向き合って自動車整備に必要な技能を学んでいきます。ご案内くださる先生方に各科の授業や実習現場を見せていただくことにしました。

たりに真剣に観察していた一人の学生に話しかけると「来月3月には卒業して職に就き、実際にお客様の車を扱うのだと思うと緊張します」と話してくれました。

食していました。その中に女子学生達のグループを見つけた。全校で40人位の学生がいますが、女子学生は9人とのこと、その7人が集まっていたのです。早速食事の後グループインタビューを取り付けました。校長先生が交渉してくださいました。食事を終え食堂を出ると、踊り場に大きなショーケースが並んでいて数々の入賞トロフィーやレプリカが飾られていました。フォーミュラー大会など技術競技のもの、またスポーツや趣味の催しのコンテストのものが数多く、学生達の部活動、同好会活動の勢などがわかりました。

次の実習場では整備科1年生、今年入学の未だホヤホヤ、ワイパーの取り付け作業を学んでいました。ワイパーとボンネットの中にある水のタンクとモーターとの関係等、指導されていた先生の教え方が誠に楽しく、学生達とのやりとりが明瞭で元気があつて学生達にも笑いが起こるなど、生き生きとした指導をされていました。名は山崎翼先生、彼は若手のホープだと五月女校長。

こうして約3時間、五月女校長と寺尾先生の説明を受け、全校内を見学し終えたところで丁度昼となり食堂に案内されました。食堂は全校集会も開かれる講堂規模で広く、多くの学生が集まってきました。メニューは曜日替りです。その中から選びます。学生達はそのメニューを選ぶもの、また持ち込みの弁当やパン等を食べるもの、あちこちにグループができ楽しげに語り

その数を列記するだけで10有余になります。技術関係だけで2輪整備、オフロード、EVエコラン、4輪整備、オートバイ、レストア、エンジンの各同好会。スポーツではテニス、バスケット、サッカー・フットサル、サイクルスポーツ、そしてちょっと変わったところでガーデニングの同好会。これでは放課後のキャンパスも陣取り大変でしょうね。



さて食事も終わり7人の侍ならぬ7人の女子学生の皆さんが集まってくださいました。聞きたかったのはこの学校で学ぼうと思った動機についてでした。彼女達の話は箇条書きにしますと、

○高校を卒業して何も考えていなかったが、ある日父とドライブしてパンク、その時来てくれたJAFの人の働きぶりを見て自分もこんな仕事をしよう、人助けがしたいと思って入学。

○自動車系の高校を卒業したがエンジンに興味がありHONDAが好きで入学。

○普通科の高校を卒業したが好きなことは何かと考えたとき、これを専門にしようと思い……。○小学4年生の時バイクのレースに出て、その時ついてくれたメカの人を見て自分もメカを知りたいと思って入った。

○祖父がホンダカーズを経営していてカッコよかったが父は免許を持っていなかったので父を越えたいと思いついた。

○家業を継ぐために。○父が整備士で生まれた時からその姿を見てきて、自分もこの仕事をしたと思って入学。○地元の自動車系の高校を出た

が、地元から離れて学びたいと思ひ入学。と夫々の思いを話してくれ、一人ひとりがしっかりと自分の意志を持って学ぼうとしているのに感銘。立派な整備士になり、社会に貢献してくれることを願って会を終えました。



この特集の取材を終えて「ホンダテクニカルカレッジ関西」という学校に見たのは、各館の実習場に並ぶ教材車、エンジン等パーツの数、映像機器やパソコンの設備の整った教室等、学習環境の充実への驚きもありましたが、学生達の学びへの姿勢でした。中には教室で疲れて居眠っている可愛い姿もありましたが、どの場でも自動車に触れることに興味を持ち、理論を学ぶことに真剣に取り組んでいたこと、そして何より学校が交友の場になっていました。教える先生と学ぶ学生との間に血の通いを感じたことでした。みんな楽しそうだったことです。そこに本田宗一郎さんが云う「今の学校はコンピュータの試験をしているようなものだ……」でない学校を見ました。

最後に五月女校長にいま急速に変貌しようとする自動車業界の動きの中で、この学校の意義と信念をお聞きしました。

「私たちは車(クルマ)がどの様な形に、また機能がどのように変化してもその時代時代の車の安全性を確保する整備を完全に行える技術訓練をしっかり教えて参ります。そして大きくは時代の安全を守ることを使命として社会貢献を行える人間を育て世に送り続けたいと思っています。また学生一人ひとりの内に持つ能力や良き性格をみつけ引き出し、技術のみでなく人間的に社会で可愛がられる人間を育成することに努めたい、それが私の今の思いです」と話してくださいました。



校長 五月女 浩氏